（表紙）

令和四年度
岡山中学校　［A方式］　問題Ⅱ

【注意】

- この試験は、文章や資料を読んで、太字で書かれた課題に対して、答えやあなたの考えなどを書く試験です。課題ごとに、それぞれ指定された場所に書きましょう。
- 試験用紙は、表紙（この用紙）をのぞいて五枚あります。指示があるまで、中の試験用紙を見てはいけません。
- 「始め」の合図があってから、試験用紙の枚数を確かめ、五枚とも指定された場所に受験番号を記入しましょう。
- 試験用紙の枚数が足りなかったり、やぶれていたり、印刷のわるいところがあったりした場合は、手をあげて先生に知らせましょう。
- 試験用紙の ※ 　　 には、何も書いてはいけません。
- この試験の時間は、四十五分間です。

受験番号	

課題1　次の文章は、筆者が森有正の文章を引用して「体験」と「経験」の違いについて述べたものです。これを読んで、あとの(1)～(4)に答えましょう。

人間はだれも「経験」をはなれては存在しない。人間はすべて、「経験を持っている」わけですが、ある人にとって、その経験の中にある一部分が、特に貴重なものとして固定し、その後の、その人のすべての行動を支配するようになってくる。すなわち経験の中のあるものが過去的なものになったままで、現在に働きかけてくる。そのようなとき、私は体験というのです。

それに対して経験の内容が、絶えず新しいものによってこわされて、新しいものとして成立し直していくのが経験です。経験ということは、根本的に、未来へ向かって人間の存在が動いていく。一方、体験ということは、経験が、過去のある一つの特定の時点に凝固したようになってしまうことです。

だから、どんなに深い経験でも、そこに凝固しますと、これはもう体験になってしまうのです。これは一種の経験の過去化というふうに呼ぶことができましょう。過去化してしまっては、経験は、未来へ向かって開かれているという意味がなくなってしまうと思うのです。

（中略）

……絶えず、そこに新しい出来事が起こり、それを絶えず虚心坦懐に認めて、自分の中にその成果が蓄積されていく。そこに「経験」というものがあるので、経験というのは、あくまで未来へ向かって開かれる。すべてが未来、あるいは将来へ向かって開かれていく。というのは、つまりまったく新しいものを絶えず受け入れる用意ができているということです。それが経験ということのほんとうの深い意味だと思うのです。

森有正『生きることと考えること』より　講談社現代新書

〈生きているもの〉を「X」と呼び、硬直化した〈死んでいるもの〉は「Y」と呼んで区別しようというのが、森有正が最も大切にした思想です。そしてこの「X」こそが、私たちの生を未来に向かって開いてくれるものなのだ、と言っているのです。

「苦労が身になる」という言葉がありますが、「経験」をした人は苦労が身になりますが、一方「体験」止まりの人は、苦労は身にならずに「*勲章」になります。

苦労が「経験」になっている人は、よほどこちらが質問しない限りは、自分からは苦労話をしないものですが、「体験」の人の場合は、こっちが聞いてもいないのにうんざりするぐらい苦労話をしてくれます。

「苦労が身になる」というのは、まさに身になってしまったわけですから、もはやその苦労は本人の一部になっている。そういう人からよく聞くのは「あの苦労があったからこそ、今の自分があるのだ」という言葉です。苦労が勲章のように外側にぶら下がっている人は、「苦労は買ってでもしろ」と言ったりしますが、その苦労で当の本人は実質的には変化・成長していなかったりします。

「身になる」というのは、「質」的に深い変化がその人に起こることです。ですから、その出来事がたとえ小さなものだったとしても、「経験」として深まることで、いろんなことにつながる普遍性が獲得されます。ですから、自分がそうなったことのない他人の状態についても、その人の思いや、その人にとって今は何が必要かというようなことが、自分の「経験」から適切にかめるようになるのです。「体験」止まりの場合には、「自分はそうなったことありませんので、分かりません」で終わってしまう。

ですから、深まっていない「体験」に基づいて「この人の状況は、自分のあの体験と似たようなものだから、同じだろう」と決め付けて、「そういう時は、こうすればいいのよ！」とアドバイスしたりすることは、共感とは似ても似つかぬ「ピント外れの親切」や「ありがた迷惑」になってしまいます。「体験」には、「経験」のように普遍性がないので、他のことには応用が利かないのです。

＊勲章…その人の功績をたたえて与えられる、しるし。

（泉谷閑示「『普通がいい』という病」から）

1※

（2枚め）

受験番号	

(1) ═「虚心坦懐」は、「心がすなおでこだわりを持たず、さっぱりとしていること」という意味を持つ四字熟語です。このほかに「心」を使う四字熟語にはどのようなものがありますか。漢字で一つ書きましょう。ただし、「心」は何回使ってもよろしい。

※

(2) X・Y の中には、どのような言葉を書き入れるのがよいですか。それぞれ本文中から抜き出して書きましょう。

X

Y

※

(3) ═「『体験』の人の場合は、こっちが聞いてもいないのにうんざりするぐらい苦労話をしてくれます」とありますが、「体験」の人が「苦労話」をしたがるのはなぜですか。八十字以内で書きましょう。（、や。や「」なども一字に数えます。）

80字

※

(4) この文章で述べられている「経験」について説明した次の文の A ・ B に適当な言葉を書きましょう。

A は三十五字以内、 B は五十字以内で書きましょう。（、や。や「」なども一字に数えます。）

「経験」とは、 A ことであり、その「経験」によって苦労を身につけた人は、 B ことができるようになる。

A

35字

※

B

50字

※

受験番号	

課題２　あなたは中学生になり、夏休みの課題として自由研究をすることになりました。テーマを決め、何を使い、なぜそれに取り組むのかを、きっかけとなったことや見たり聞いたりしたことを含めて書きましょう。また、その自由研究からどんな結果が予想できると思いますか。二百字以内で書きましょう。（、や。や「」なども一字に数えます。段落分けはしなくてよろしい。一マス目から書き始めましょう。）

200字　100字

※

2※

受験番号	

(1)※

3※

課題３　明子（あきこ）さんと一郎（いちろう）さんは，ＳＤＧｓ（エスディージーズ）について先生と話しました。あとの会話文を読んで，（１）～（４）に答えましょう。

先生：ＳＤＧｓという言葉を聞いたことがありますか。
明子：はい。「［　A　］な開発目標」という意味の英語の略称（りゃくしょう）です。
一郎：2015年に国際連合で決定され，2030年までに達成することになっている目標です。
先生：なぜＳＤＧｓが定められたのでしょうか。
明子：将来，人々が幸福に生きるために定められたのだと思います。
一郎：そのためには環境（かんきょう）を大切にして，資源を使い切らないようにしなければならないと思います。

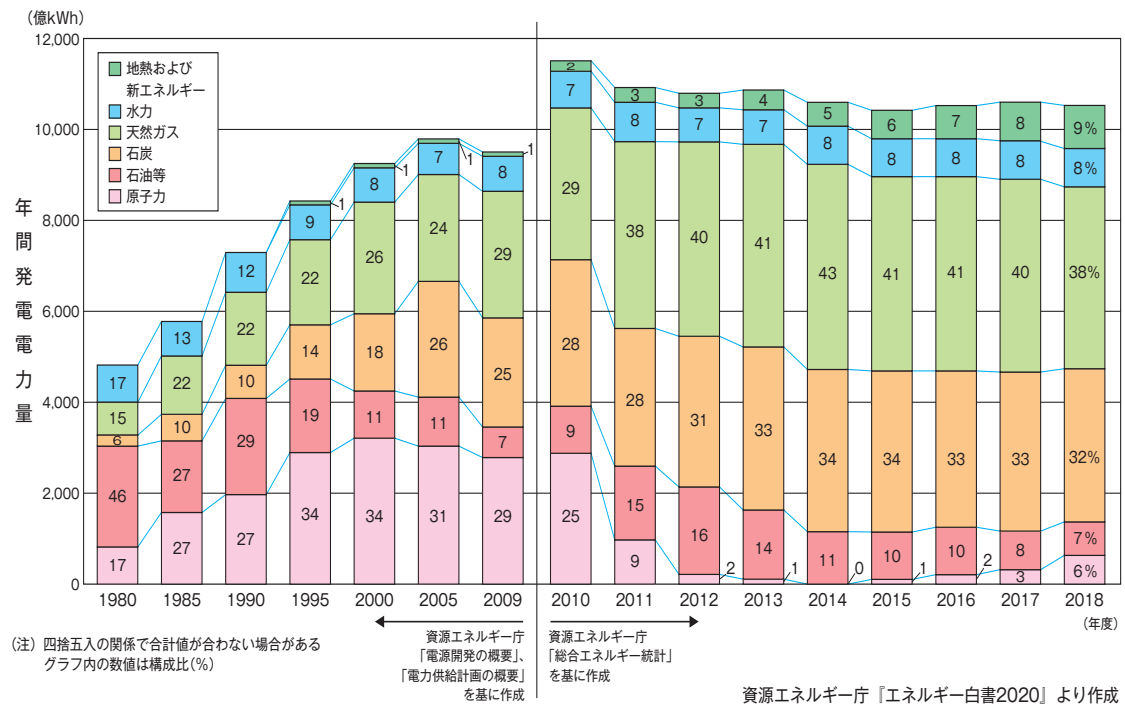
（１）　明子さんの会話文の［　A　］にあてはまる言葉を漢字４字で書きましょう。

A	

先生：ＳＤＧｓには17の目標があります。そのうち７「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」の達成について考えてもらうためにグラフを用意しました。

ＳＤＧｓの17の目標

グラフ　日本の電源別発電電力量の推移



（注）四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある
グラフ内の数値は構成比(%)

資源エネルギー庁『エネルギー白書2020』より作成

受験番号	

⑵※	⑶※	⑷※

一郎：グラフをみると，年間発電量が 1980 年は約 B kWh でしたが，2010 年は約 C kWh になっています。
明子：30 年間で約 D 倍になっています。その後は減少する傾向（けいこう）がみられます。

（２） 一郎さんと明子さんの会話文の B ～ D にあてはまる数字を考えて書きましょう。

B		C		D	

先生：2010 年から 2012 年にかけてみていくと，大きな変化がありますね。
明子：年間発電量に占める E の割合が小さくなっています。
一郎：原因は F ですね。

（３） 明子さんと一郎さんの会話文の E にあてはまる言葉と，F にあてはまる内容を考えて書きましょう。

E	
F	

明子：それがきっかけになって社会全体の電力に対する意識が変化して，年間発電量の増加がみられなくなったのですね。
一郎：ＳＤＧｓの７「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」を達成できるかもしれませんね。
先生：これからもＳＤＧｓの他の目標についても考えてみてください。

（４） ＳＤＧｓの７「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」を達成するために，毎日の生活のなかであなたが心掛（こころが）けていること，あるいはこれから心掛けていきたいと考えていることを書きましょう。また，７「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」以外のＳＤＧｓの目標を１つ選んで，同じように心掛けていること，あるいはこれから心掛けていきたいと考えていることを書きましょう。解答欄（らん）の（　　）には 17 の目標のうちのどの目標を選んだかがわかるように数字を書きましょう。

（　７　）
（　　）